花巻市博物館だより

目次／P1 テーマ展「花巻の遺跡」／P2-3 常設展示リニューアル／P4-5 テーマ展「花巻の遺跡」／P6 活動レポート：［収蔵庫の燻蒸］／P7 館長コラム・行事予定／P8 花博コレクション

2018.8
No.55

右上から　縄文土器深鉢・縄文美人土偶［小瀬川Ⅰ遺跡］、土師器高坏［古館Ⅱ遺跡］、白磁四耳壺［丹内山神社経塚 / 岩手県指定有形文化財 / 個人蔵］、さいころ［笹間館跡］、肥前産染付皿［花巻城三の丸跡］、クマ形土製品［野原Ⅲ遺跡］

「遺跡」とは、過去の人々の生活の痕跡が残されている場所を指す言葉です。遺跡を調べることで昔の人がどんな暮らしをしていたのかを知ることができます。このことから遺跡は「歴史の宝箱」であり、過去と現在をつなぐ「タイムカプセル」ともいえるかもしれません。

花巻市内には、旧石器時代をはじめとする約1000か所の遺跡が確認されています。テーマ展「花巻の遺跡」では、市内の代表的な遺跡から発見された遺構や遺物を紹介し、これまでの発掘調査から少しずつ分かってきた花巻の旧石器時代から江戸時代までの暮らしについて辿りながら、花巻のディープな魅力を探ります。

花巻市博物館常設展示 リニューアル

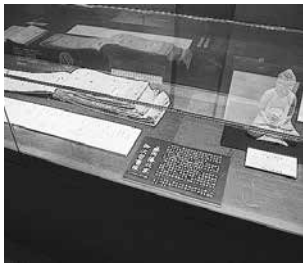
花巻市博物館が開館して14年が経ち、これまで様々な企画展や特別展、テーマ展を開催し、35万人以上が来館しています。さらには、博学連携により、多くの小中学生が博物館を利用し、花巻の歴史を学ぶ場として活用しています。

常設展示では、花巻地方にかかわる考古と歴史の二分野を主に取り上げていました。教育普及活動や展示活動をとおし、より興味深く伝えるために、開館15周年を目前に常設展示の一部を次のようにリニューアルをいたしました。

【近世の花巻】

■花巻の町を作った人々

ここには、盛岡藩北家御次留書帳（岩手県指定有形文化財）を展示しました。花巻城に藩主が訪れた際に、ふるまわれた献立などが書かれた部分を紹介しています。



花巻の町を作った人々のケース内 リニューアル前の展示風景（左）とリニューアル後（右）

■藩とまもり

藩とまもりのリニューアル前の展示風景

ここでは、藩境警備のために腕を鍛えた花巻侍をテーマに展示しておりました。火縄銃、弓、槍、六尺棒はそのままにし、ケース内に花巻御給人の藩士たちのくらしや衣食住についての紹介も加えました。

藩とまもりのリニューアル後の展示風景

また、武家屋敷の伊藤家（花巻市指定有形文化財）や松川家の間取りもここで知ることができます。

■松川滋安と揆奮場

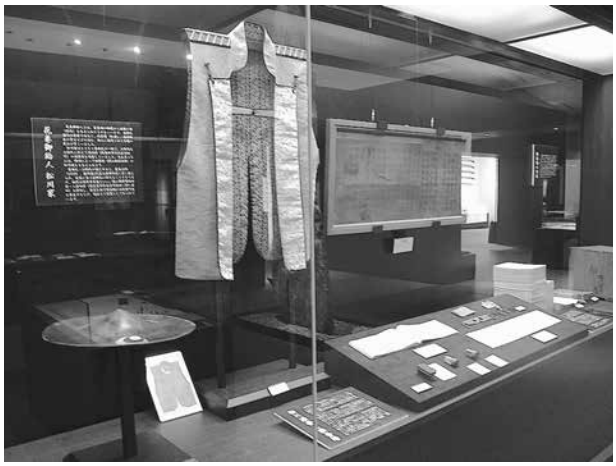
江戸時代末期になると、盛岡藩内では文武教育の振興のために、藩校に倣って各地に郷校が開設されるようなりました。

花巻では、御給人の松川滋安が私塾を開いて生徒に教授していましたが、花巻地方の文武教育が振るわないことを嘆き、学校を設立して教育を振興させようと志しました。

滋安は、副業を営みながら資金を蓄え、自力で文武学館を建設することを藩に願い出ます。万延元（1860）年に「揆奮場」と命名され、藩に献納されたこの学校は、花巻城下における文武教育の中心施設になりました。

リニューアル前の松川滋安コーナーと揆奮場の学問の展示風景

これまでの「揆奮場の創立」と「揆奮場の学問」を、「松川滋安と揆奮場」とし展示替えしました。



リニューアル後の松川滋安と揆奮場の展示風景

【美術工芸】

先にも記述したとおり、花巻市博物館の常設展示には考古と歴史の二分野を主に取り上げていたため、美術工芸コーナーが存在しませんでした。「いつでも花巻人形を見たい」と、来館者からの要望もありましたので、今回のリニューアルでは美術工芸を取り上げ、多くの作品や資料を展示紹介することになりました。

当館で数多く所有する花巻人形をはじめ、花巻で活躍した画人の作品や刀剣・刀装具、やきものを常に鑑賞いただけるようにしました。そして、期間は未定ではありますが、展示替えをして、様々な作品や資料を堪能していただければと考えております。

リニューアル後の美術工芸の展示風景

やきもの、刀剣・刀装具等

【花巻ゆかりの偉人】

明治時代以降、花巻からは多くの優れた人物が世に出ています。

太平洋の懸け橋として世界で活躍した新渡戸稲造のルーツ、祖父の傳（つとう）と父の十次郎、言わずと知れた童話作家・詩人の宮沢賢治、日本近代洋画の先駆者となった萬鉄五郎など、枚挙にいとまがありません。

先人たちは、花巻を離れても生まれ育ったこの土地の歴史と風土をこよなく愛し、固い信念をもって活躍しました。

ここでは、多くの先人の中から、花巻温泉を一大リゾート地としてつくりあげた金田一國士（くにお）、チベット仏教学の国際的先駆者の多田等観、オペラ歌手として海外で称賛を浴びた伊藤敦子を取り上げて紹介しています。

リニューアル後、金田一國士、多田等観、伊藤敦子を紹介。

今後も多くの方々に足を運んでいただけるよう、邁進してまいりますので、ぜひご来館ください。

（学芸員　小原伸博）

平成30年度テーマ展

「花巻の遺跡」

期間：平成30年9月15日（土）～11月18日（日）

本展では、花巻市内の代表的な遺跡から発見された遺構や遺物を紹介し、花巻の歴史とディープな魅力を探ります。

展覧会を通じて身近な地域の遺跡からわかった昔の人々の暮らしに触れ、地域の新たな魅力を発見する機会となりましたら幸いです。

■プロローグ『遺跡は歴史の宝箱』

遺跡・遺構・遺物や遺跡の発掘調査と保護について解説します。また、花巻の遺跡発掘調査の先駆けである、1957（昭和32）年に東京大学東洋文化研究所により行われた胡四王山遺跡の発掘調査について紹介します。そのほか、花巻の自然環境や平成30年度までに確認されている市内の遺跡分布図についても展示します。

昭和32年の胡四王山遺跡の調査成果をまとめた報告書「館址」（左）と出土した須恵器甕（右）

■旧石器時代『花巻における歴史の幕開け』

日本の歴史の中で一番長い時代は、旧石器時代でした。宿内遺跡の発掘調査によって出土した資料を紹介し、旧石器時代の暮らしの一端を垣間見ます。

宿内遺跡の石器出土状況（左）［※1］と出土した石器（右）

■縄文時代『めくるめく自然と共生ライフ』

市内には県内最古とされる竪穴住居跡が確認された上台Ⅰ遺跡をはじめ、豊富な縄文時代の遺跡が所在しています。時期によって変化する土器の造形と石器や土偶などの様々な出土資料を展示し、創造と創意工夫により自然と共生した縄文時代の暮らしを紹介します。

(左)下中居Ⅱ遺跡出土の縄文土器［※2・3］
(右)久田野Ⅱ遺跡出土の土偶

■弥生時代『続・狩猟採集ライフ』

市内に所在する代表的な遺跡として高松Ⅱ遺跡、滝大神Ⅰ遺跡、アバクチ洞穴があります。これらの遺跡分布は山間部に多い傾向にあり、水田跡は今のところ見つかっていません。発掘調査の出土資料から、当地域の弥生時代の暮らしについて探ります。

(左)アバクチ洞穴の幼児人骨出土状況［※1］
(右)滝大神Ⅰ遺跡出土の弥生土器［※4］

■古墳～奈良時代『南北の文化とエミシの世界』

東北地方北部では、近畿地方の勢力を中心にまとまって成立した律令国家の支配拡大という潮流に影響を受けながらも独自の社会が展開しました。エミシと呼ばれた人々の暮らしについて、豊沢川流域に営まれた集落遺跡と熊堂古墳群の出土資料を中心に

紹介します。

(左) 古館Ⅱ遺跡出土の土器 (右) 熊堂古墳群復元

■平安時代『律令社会の展開と衰退』

エミシと律令国家の戦いの後、胆沢城・志波城の造営を経て、811（弘仁２）年に葦縫郡が設置され、当地域も律令国家に組み込まれました。律令社会の展開により新しい技術や文化も浸透しました。移り変わる平安時代の暮らしを似内遺跡や高松山経塚群などの出土資料から辿ります。

中嶋遺跡出土の井戸跡 (左) と「千万」墨書土器 (右) [※2・3]

■鎌倉～戦国時代『武家勢力の興亡』

奥州合戦を経て花巻周辺は平泉藤原氏にかわって、源氏の御家人たちが地頭として新たな支配者となりました。当地域の新たな支配者となった稗貫・和賀両氏らの興亡の一端を大瀬川館跡や笹間館跡などの出土資料を通じて窺います。

(左) 笹間館跡出土の陶磁器

(右) 大瀬川館出土の赤絵皿 [※1]

■安土桃山～江戸時代『盛岡藩領花巻の時代へ』

南の伊達領と接する花巻は、南部領の要地として花巻城を中心に政治・経済・文化の面で統括されていました。花巻城跡の出土資料を中心に当時の暮らしを紹介します。

(左) 花巻城本丸跡西御門復元
(右) 花巻城跡三の丸出土の肥前産色絵碗 [※1]

■エピローグ『過去と未来をつなぐために』

現在の花巻の様子を撮影した写真を紹介します。

胡四王山から望む宮野目地区の風景

（学芸員　高橋静歩）

※1 花巻市総合文化財センター所蔵
※2 岩手県教育委員会所蔵
※3 (公財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター画像提供
※4 東和ふるさと歴史資料館所蔵

■関連イベント

■講演会（聴講無料）

①「御所野遺跡と花巻の縄文遺跡からみえる縄文時代の暮らし」

日　時：10月20日（土）13時30分から15時

講　師：菅野紀子 氏（一戸町教育委員会 世界遺産登録推進室　文化財主任）

②「稗貫・和賀地方における中近世城館の建築文化」

日　時：11月17日（土）13時30分から15時

講　師：中村隼人 氏（日本建築学会会員）

■ギャラリートーク［展示解説会］（要入館料）

日　時：10月13日（土）13時30分から

場　所：花巻市博物館　企画展示室

■ワークショップ「ミニチュア土器つくり」（要申込）

日　時：10月6日（土）13時30分から15時（予定）

定　員：10名

参加料：250円

※講演会とワークショップの場所は花巻市博物館講座体験学習室です。

活動レポート　収蔵庫のくん蒸作業―有害生物から資料を守る

花巻市博物館には大切な資料や作品が保管され、後世に残していかなければいけない大事なものがたくさんあります。資料や作品は、紙や布、木など様々な材質から形づくられ、それらを食す害虫やカビなどの繁殖によって、取り返しがつかない汚損が生じる恐れがあります。

そこで、有害生物から資料や作品を守るため、収蔵庫のくん蒸作業を平成30年6月9日～13日の期間で実施しました。

有毒ガスによるくん蒸ですので、収蔵庫から展示室が離れているとはいえ、安全のためこの期間は博物館を休館としました。

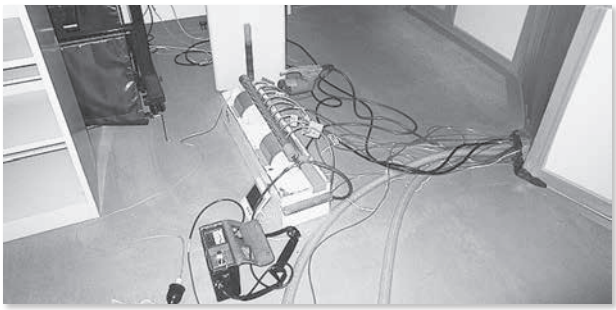
くん蒸のため休館

くん蒸に使用する資材

収蔵庫の密閉作業

ガス装置。くん蒸剤には酸化エチレンを使用

専用シートで扉を養生し、ここからガスを入れる



ガス濃度を計測

ガス挿入中

48時間のくん蒸が行われ、殺虫、殺菌が行われました。その後は、ガスの排出、復旧作業、点検の後、通常どおり開館できるようになりました。

（学芸員　小原伸博）

館長コラム

釈迦牟尼世尊絵伝

多田等観は、ダライ・ラマ13世と師弟関係を結び、10年にも及ぶチベットでの修行を行い、チベット仏教に関する膨大な資料を日本にもたらした高名なチベット学者である。等観が請来した多くの資料は、当館の主要な収蔵資料である。中でもダライ・ラマ13世の遺言で送られてきた「釈迦牟尼世尊絵伝」は、他に例をみない極めて貴重な資料である。釈迦牟尼世尊絵伝は、釈尊絵伝とも略称される。

釈尊絵伝は、「本尊」1幅と釈尊の生涯を描いた「仏伝図」23幅と「本尊番外篇」1幅を加えた25幅からなっている。本来の仏伝図は、本尊を中心にして左右に12幅づつ合計24幅で構成されていたはずであるが、現在は左4図を欠失している。

仏伝図は、中央に釈尊を描き、周辺に釈尊の事績をめぐる120の説話が1図あたり3話から13話、平均すると6話の割合で描かれている。本尊の右側に並ぶ右1図から始まり右12図までは、釈尊を中心に反時計回りに話が展開する。右12図の後は、本尊の左に並ぶ左1図に続く。左図は右図と逆に釈尊を中心として時計回りに話が展開する。

右12図の最終場面は、「舎衛城の神変対決」である。釈尊が神通力で異教徒の師匠たちを退散させる場面が描かれている。そして、左1図の最初には、「三道宝階降下」の場面がみられる。釈尊が、忉利天で生母マーヤー王妃等に教えを説き、瑠璃・黄金・水晶の階段を作らせ、地上に降りてくる場面である。釈尊は中央の瑠璃の階段、右の黄金の階段には梵天、左の水晶の階段には帝釈天を伴って降りてくる図である。この「三道宝階降下」は、広く知られた構図でガンダーラの仏伝浮彫等にもみられる。「舎衛城神変」と「三道宝階降下」は、釈尊の生涯の半ばに起こったとする文献資料や考古資料の存在が確認されている。（岡本健資「多田等観請来「釈迦牟尼世尊絵伝」に関する考察」森雅秀編『アジア仏教美術論集 中央アジアⅡチベット』中央公論美術出版 2018年）

釈尊絵伝の仏伝図は、120の事変を極めて正確に且つ綿密に計算された配置で描かれたものであることが検証されたことになる。

（館長　高橋信雄）

行事予定

平成30年8月～平成30年11月

企画展示室

●特別展　「写真家が捉えた　昭和のこども」

会　期：7月7日(土)～8月26日(日)

◇ギャラリートーク（展示解説）

日　時：8月12日(日)13：30～14：15

場　所：花巻市博物館　企画展示室

◇showワークショップ⑤

「プラ板キーホルダーを作ろう」

日　時：8月18日（土）13：30～15：00

場　所：花巻市博物館　講座体験学習室

定　員：20名

材料費：300円　※要申込

●テーマ展　「花巻の遺跡」

会　期：9月15日(土)～11月18日(日)

※関連イベントはＰ5をご覧ください。

講座・体験学習

【講座】

9月22日（土）	館長講座-2（花巻の遺跡）
10月28日（日）	はじめての古文書①
11月11日（日）	はじめての古文書②
11月18日（日）	はじめての古文書③

※はじめての古文書講座（要申込）は、10月～12月まで全5回開講します。12月以降の日程は次号にてお知らせします。

【体験学習】

9月15日（土）	勾玉つくり
9月16日（日）	琥珀玉つくり

※内容に変更がある場合があります。

※時間は全て13：30～15：00

花巻市博物館

〒025-0014 岩手県花巻市高松 26-8-1

電話：0198-32-1030　FAX：0198-32-1050

開館時間：午前８時30分から午後４時30分まで

休館日：12月28日から１月１日まで

入館料	小学生・中学生	150（100）円
	高校生・学　生	250（200）円
	一　般	350（300）円

※（ ）内は 20 名以上の団体割引料金

※割安な近隣４館共通券もあります。

※特別展示を行う場合、入館料を定める場合があります。

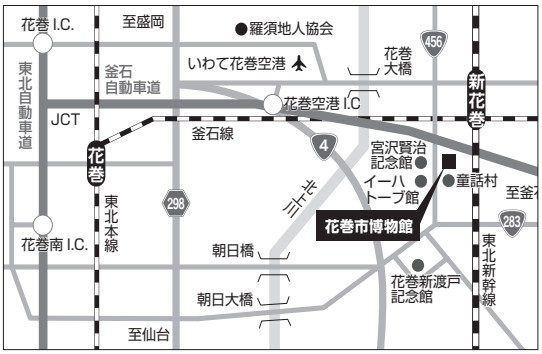
交通案内

■東北新幹線
新花巻駅より車で３分

■東北本線
花巻駅より車で約15分

■釜石自動車道
花巻空港 I.C より車で約５分

■バス
新花巻駅より約５分
岩手県交通 土沢線
イトーヨーカドー行
賢治記念館口 下車



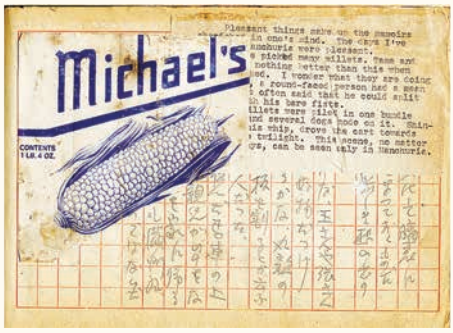
◇ URL http://www.city.hanamaki.iwate.jp/bunkasports/501/hanamakisihakubutukan/

花博コレクション

Hanahaku collection

表紙には「ソリド風景」と題された絵が描かれている。

「苦斗じだい」タイトルページ。



本文に貼られた缶詰のラベルと米軍による英訳文。

トマト缶のラベルの裏にも
日記が書かれている。

別の食糧品ラベルの裏に
描かれた「楽しき家」。

『苦斗じだい』15.1 × 23.7cm /100 頁

「苦斗じだい」は、太平洋戦争末期に日本の遥か南方に位置するニューギニア・ビアク島で戦死した日本兵が残した戦地日記です。

この日記を記した刈屋隼人陸軍中尉は宮沢賢治の末妹の義弟（刈屋中尉の兄嫁が宮沢賢治の末妹）にあたる人です。1944（昭和19）年、激戦地となったビアク島において刈屋中尉が指揮する小隊7名は支隊長や大隊長からの「友軍を待ち、生き残って戦力保持に努め、時来たらば共に反撃せよ」との下命を忠実に守り、島内のジャングルに身を潜め、友軍の到来と反撃する機会を待ち続けていました。しかし、友軍はついに来ることはなく、刈屋中尉は26歳の若さで戦死しました。

残された日記には、戦地での出来事だけでなく、過酷な環境の中で友軍を待ちわびる中尉の心境や自らを励ます言葉、部下の勤務評価、故郷への思い、義兄宮沢賢治に対する敬愛の念なども綴られています。中尉の死後、日記はアメリカ軍に拾得され、情報解析のためその一部が英訳されました。のちに軍から民間人の手に渡り、宮沢賢治の末妹の子であり刈屋中尉の甥にあたる宮沢信夫氏の元へと返却され、平成23年度に当館に寄贈されました。

刈屋中尉の日記は、原稿用紙だけでなくアメリカ軍の貨物廠から奪取した煙草や缶詰などの包装紙の裏面にも当時の心境などメモが書き留められており、文面からは、味方の増援もなく窮乏する中で懸命に生きようとする刈屋中尉の姿が窺えます。

（学芸員　小田島智恵）